

次期県立高校将来構想の策定 に向けた考え方について（案）

1 次期県立高校将来構想の策定に向けた考え方

○ 構想の位置付け

20年後を見据えた学びの姿・高校教育の在り方の指針

○ 策定に向けた考え方（理念）

◎ 学校の適正規模の考え方をどのように整理するか

- ・ 地域の実情に合わせた適正かつ柔軟な学校規模の検討
- ・ 遠隔教育やオンライン学習の導入による場所にとられない学習機会の確保
- ・ 学校間連携・地域間連携による教育資源の共有による質の高い教育の維持 など

◎ それぞれの地域に特色を持った学校をどう配置するか

- ・ 学際領域や地域社会等に焦点を当てた普通科教育の強化
- ・ 先進的な技術や地域特有の産業に重点を置いた専門教育の強化
- ・ 産業界、大学、行政との連携を強化し、地域に根ざした教育の充実 など

◎ どんな教育を提供できるか、そのためにはどのような学校が必要とされるか

- ・ 20年後の宮城県の将来像に合致した教育の提供
- ・ 技術革新等による就業環境の変化や気候変動などによる環境問題に対応できる教育内容の充実
- ・ 生徒の学習意欲を高める教育内容の充実 など

○ 検討の観点

- ・ 教育改革の取組の成果と課題の整理（学級減・統廃合、全県一区等）
- ・ 都市集中型学校、地方分散型学校、地方創生の核としての学校の整理
- ・ 適正規模の考え方と小規模校の存続の考え方（市町村への移管）の整理
- ・ 社会変化に対応した学科の考え方（学科ごとの現状と課題の分析）の整理
- ・ 福祉的役割・セーフティネット（多様性、特別支援、貧困）としての高校の役割の整理
- ・ 私立高校との役割分担の整理 など

2 検討の進め方

- 審議会で構想の軸となる考え方を共有した後、重点的に議論すべき事項について、集中的かつ機動的に調査、検討を行うために、項目毎に部会を設置
- 部会での検討結果を受けて、最終的に審議会において審議

県立高等学校将来構想審議会（親会）

学校配置等の構想の軸となる考え方

- 適正規模の考え方
 - ・ 現在の適正規模の検証
 - ・ 地区別・学科別の適正規模設定の可能性
- 学校配置の考え方
 - ・ 県全体、地区別、学科別
 - ・ 地方部への特色ある学科の設置（英語科/情報技術科等）
 - ・ 寄宿舎設置の可能性
- 学科の在り方
 - ・ 学科の統合や連携（工業高校と普通科の統合など）
 - ・ 他校・専門機関との施設・設備の共有の在り方

学校配置検討部会

- 再編基準
 - ・ 再編統合、分校化、学級減等の基準を整理
- 中高一貫校の在り方
- 公私の在り方
 - ・ 私立高校との役割整理（競合/重複する高校の方向性検討）
- 特別支援教育との連携
 - ・ 特別支援教学校の狭隘化への対応（併置・跡地利用）

小規模校の学びの在り方検討部会

- 遠隔教育
 - ・ 授業配信校や授業配信センターの設置
 - ・ 専門学科での遠隔教育の可能性
- 移動手段の確保
 - ・ スクールバス運行の可能性
- 教員の確保
 - ・ 教員の巡回授業やオンライン授業の実施方法の検討
- 学校間連携
 - ・ 学校行事や部活動の充実
- 地域等との連携
 - ・ 市町村立高校の設置の可能性
 - ・ 小・中学校、大学等と協働
 - ・ コミュニティスクールの拡充
 - ・ 全国募集の拡充
- 小規模校における部活動の在り方
 - ・ 部活動の持続可能性（部活動を行わない学校の整理）

高校魅力化検討部会

- 普通科改革
 - ・ 学際領域や地域社会等に焦点を当てた新しい学科の新設
- 専門学科改革
 - ・ 半導体やAI業界に関する学び
 - ・ 中小企業への就職促進/地域との連携促進、インターンシップ充実
 - ・ 起業家を育成する高校の設置
- 新たな学科の設置
 - ・ 生徒が学びたいと思える学科、新たな産業の創出を視野に入れた学科等
- 地域資源活用
 - ・ 地域等の教育資源や人材の更なる活用
- 学級規模の特例の検討
 - ・ 少人数学級編成の可能性
- スクール・ミッションの再定義
 - ・ 学校配置を考慮したミッションの再定義

多様な学びの在り方検討部会

- 不登校生徒への対応
 - ・ 支援体制の充実
 - ・ 通信を用いた学びの充実
 - ・ 学びの多様化学校の設置の可能性
- 学び直しの対応
 - ・ 支援体制の充実
 - ・ i d e a lスクールの横展開
- 特別な支援を要する生徒への対応
 - ・ インクルーシブ教育の充実
 - ・ 通級による指導の充実
- 定時制の在り方
 - ・ 学校配置の考え方
 - ・ 再編の方向性
- 通信制の在り方
 - ・ 配信センター機能の検討
 - ・ スクーリング拠点増設の検討

3 今後のスケジュール

開催時期	審議内容						
	県立高等学校 将来構想審議会	学校配置検討部会	小規模校の学びの 在り方検討部会	高校魅力化 検討部会	多様な学びの在り方 検討部会	備考	
R6	5月30日	②次期将来構想の策定について					
	7月～ 8月	③学校配置の考え方等				・特別支援教育将来構想審議会 →「次期特別支援教育将来構想について」 R6.8中間案公表	
	9月～ 10月	④学校配置の考え方等				・各産業界／地域からの意見聴取 R6.10取りまとめ	
	11月		①再編基準、中高一貫校の在り方	①遠隔教育等	①普通科・専門学科改革等	①不登校生徒・学び直しへの対応	
	12月			②移動手段／教員の確保等	②新たな学科、地域資源活用等	②特別な支援を要する生徒への対応	・産業教育審議会 →「少子化を踏まえた専門高校・専門学科の在り方について」 R6.12提言予定
R7	1月		②公私の在り方、特別支援教育との連携	③関係機関との連携等	③スクール・ミッションの再定義	③定時制・通信制の在り方	
	3月	⑤部会検討状況報告					・特別支援教育将来構想審議会 →「次期特別支援教育将来構想について」 R7.3答申予定
	5月		③取りまとめ	④取りまとめ	④取りまとめ	④取りまとめ	
	7月	⑥部会取りまとめ報告 答申中間案（素案）の検討					
	9月	⑦答申中間案の取りまとめ					
	(10月)	答申中間案公表 パブリックコメント募集					
	(11月)	地区別意見聴取会					
	12月	⑧パブリックコメントの結果報告 地区別意見聴取会の結果報告 答申案の検討					
R8	2月	⑨答申案取りまとめ（答申）					

4 検討に当たって考慮すべき事項

- ・ 国の次期学習指導要領の改訂へ向けた議論・高校の在り方WG・有識者会議の審議内容
- ・ 人口動態 = 15歳人口36%減、仙台圏への流入激化、教員年齢構成
- ・ 都市部と地方の格差（人口、財政、産業、地域公共交通機関等）
- ・ 労働者人口の激減 = 外国人労働者の流入
- ・ ICT技術の高度化、GIGAの見通し、生成AIの進化
- ・ 半導体工場の進出とその影響、本県産業構造の動向
- ・ 特別支援学校へのニーズの動き = 狭隘化対策の視点（R13・14がピーク）
- ・ 私立高校・私立通信制への流出の動向
- ・ 他審議会における審議内容 など